

川内川水系流域治水プロジェクト

行動計画 取り組み個表

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

第8回 川内川水系流域治水協議会

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

令和6年度 主な河川整備箇所

【川内川河川事務所】



【洪水氾濫対策等】
河道掘削、護岸整備
(鹿児島県伊佐市山崎地区)
<実施内容>
河道掘削、護岸整備



【洪水氾濫対策等】
河床低下対策（キャッピング工）
(宮崎県えびの市向江地区)
<実施内容>
河床低下対策（キャッピング工）



【洪水氾濫対策等】
堰改築（下方井堰）
(宮崎県えびの市市田地区)
<実施内容>
導水路整備

【洪水氾濫対策等】
高潮堤防整備

(鹿児島県薩摩川内市久見崎地区)
<実施内容>
高潮堤防整備、水門改築、
ゲート設備製作・据付



【洪水氾濫対策等】
東郷地区引堤

(鹿児島県薩摩川内市斧洲地区)
<実施内容>
測量、堤防計画

伊佐市

鹿児島県

さつま町

【洪水氾濫対策等】
引堤整備

(鹿児島県薩摩川内市天辰第二地区)
<実施内容>
築堤
旧堤撤去



【洪水氾濫対策等】
河道掘削、護岸整備

(鹿児島県始良郡湧水町恒次地区)
<実施内容>
河道掘削、護岸整備



宮崎県

えびの市

湧水町

↑↑ :国河川管理区間

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、堤防整備、河床低下対策 等	川内川河川事務所	▶		

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

川内川水系隈之城川特定都市河川指定【川内川河川事務所・鹿児島県・薩摩川内市・いちき串木野市】

- 薩摩川内市街部を流れる隈之城川において、河川内のみの治水対策では被害の防止軽減が難しいため、流域関係者が協働して流域全体で被害軽減に取り組んでいくものとして、令和6年11月1日に特定都市河川に指定をおこなった。
- 指定を行うことにより、隈之城川における流域治水対策の加速化を行っていく。
- 今後、流域水害対策協議会を立ち上げ、隈之城川における流域水害対策計画の策定を行う。
- 1000m²以上の土地の開発(雨水浸透阻害行為)を行う場合は、雨水の流出抑制のための対策が必要

特定都市河川法の制度・施策等

<制度・施策等の活用主体>

- 河川管理者等
- 都道府県
- 市町村
- 民間事業者・住民等

雨水浸透阻害行為の許可

- 宅地等以外の土地で行う流出雨水量を増加させるおそれのある行為を許可制とする。
- 対象：公共・民間、一定規模(1,000m²※)以上 ※条例で基準緩和が可能。
- 雨水貯留浸透施設の整備を義務付け。

遊水地・輪中堤・排水機場等のハード整備

- 流域水害対策計画に位置付けられたメニューについて整備の加速化

水害リスクを踏まえた土地利用規制・住まい方の工夫等

① 貯留機能保全区域

(洪水等を一時的に貯留する機能を有する農地等を指定)

- 指定権者：都道府県知事等
- 盛土等の行為の事前届出を義務化
- 届出内容に対し、必要に応じて助言・勧告が可能

② 浸水被害防止区域

(浸水被害が頻発し、住民等の生命・身体に著しい危害が生じるおそれのある二地を指定)

- 指定権者：都道府県知事
- 都市計画法上の原則開発禁止
- 住宅・要配慮者施設等の開発・建築行為を許可制とすることで安全性を確保

雨水貯留浸透施設の整備

① 雨水貯留浸透施設整備計画の認定

- 対象：民間事業者等が整備する施設
- 規模要件：>30m²(条例で0.1-30m²の間で基準緩和が可能)
- 支援策：税制優遇、国庫補助(補助率1/2)、地方公共団体の管理協定制
- 固定資産税の減税(課税標準を1/6-1/2の間で市町村の条例で定める場合に軽減(参酌標準1/3))

② 国有地の無償貸付又は譲与

- 流域水害対策計画に基づく施設を設置する地方公共団体に対し、普通財産である国有地の無償貸付又は譲与が可能

※隈之城川における具体的な対策メニュー等については「流域水害対策協議会」にて検討し決定されます。



令和6年11月1日

特定都市河川・流域の指定

今後の予定

流域水害対策協議会の設置

流域治水対策の加速化

流域水害対策計画の策定・実施

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	氾濫域での対策	特定都市河川の指定	川内川河川事務所 鹿児島県・薩摩川内市	▶		

特定都市河川の指定を検討している河川【情報提供】

特定都市河川の指定を検討している河川の情報

(令和6年12月24日時点)

No.	水系名	河川種別	代表河川名	予定指定河川数	流域都道府県	予定流域市町村数	指定者	特定都市河川指定予定時期	流域水害対策計画策定予定時期	問い合わせ先
23	筑後川	一級	こせがわ巨瀬川	検討中	福岡県	検討中	大臣	検討中	指定後速やかに策定	九州地方整備局 流域治水推進室 電話(代表): 092-471-6331
24	本明川	一級	はんそうがわ半造川	検討中	長崎県	検討中	大臣	検討中	指定後速やかに策定	
25	菊池川	一級	はねぎがわ繁根木川	検討中	熊本県	検討中	大臣	検討中	指定後速やかに策定	
26	緑川	一級	たつのがわ竜野川	検討中	熊本県	検討中	知事	R6年度中	指定後速やかに策定	
27	大分川	一級	おおいたがわ大分川	検討中	大分県	検討中	大臣	検討中	指定後速やかに策定	
28	五ヶ瀬川	一級	ほうりがわ祝子川	検討中	宮崎県	検討中	大臣	検討中	指定後速やかに策定	
29	大淀川	一級	おおよどがわ大淀川	検討中	宮崎県 鹿児島県	検討中	大臣	検討中	指定後速やかに策定	
30	川内川	一級	はつきがわ羽月川	検討中	宮崎県 鹿児島県	検討中	大臣	検討中	指定後速やかに策定	
31	肝属川	一級	くしらがわ串良川	検討中	鹿児島県	検討中	大臣	検討中	指定後速やかに策定	

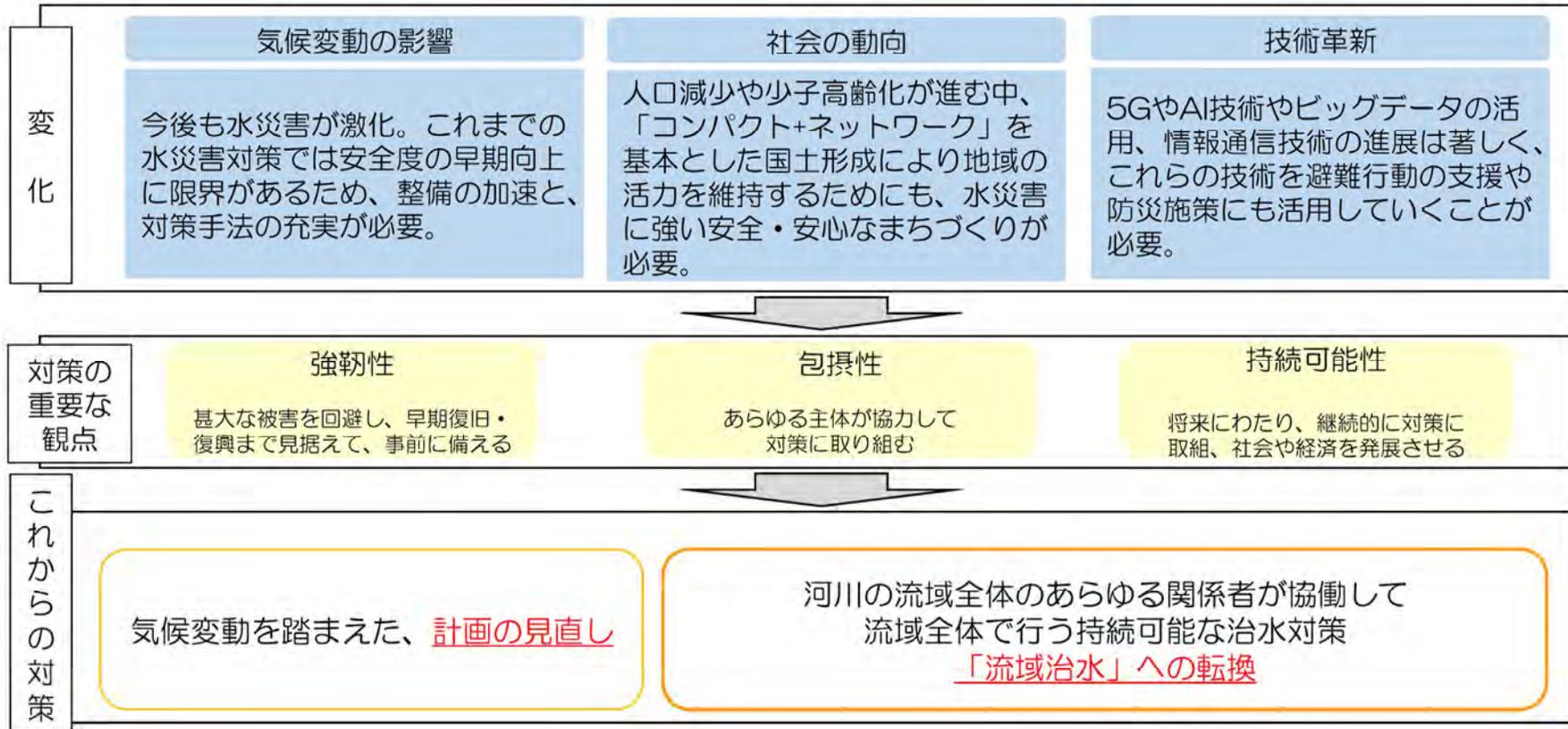
※ 上表は当面5年間(R5年度~R9年度)での特定都市河川指定を検討する河川を記載しています。

※ 特定都市河川指定の予定や、河川数、市町村数、指定年月等の各項目は、関係機関との調整等により変更することがあります。

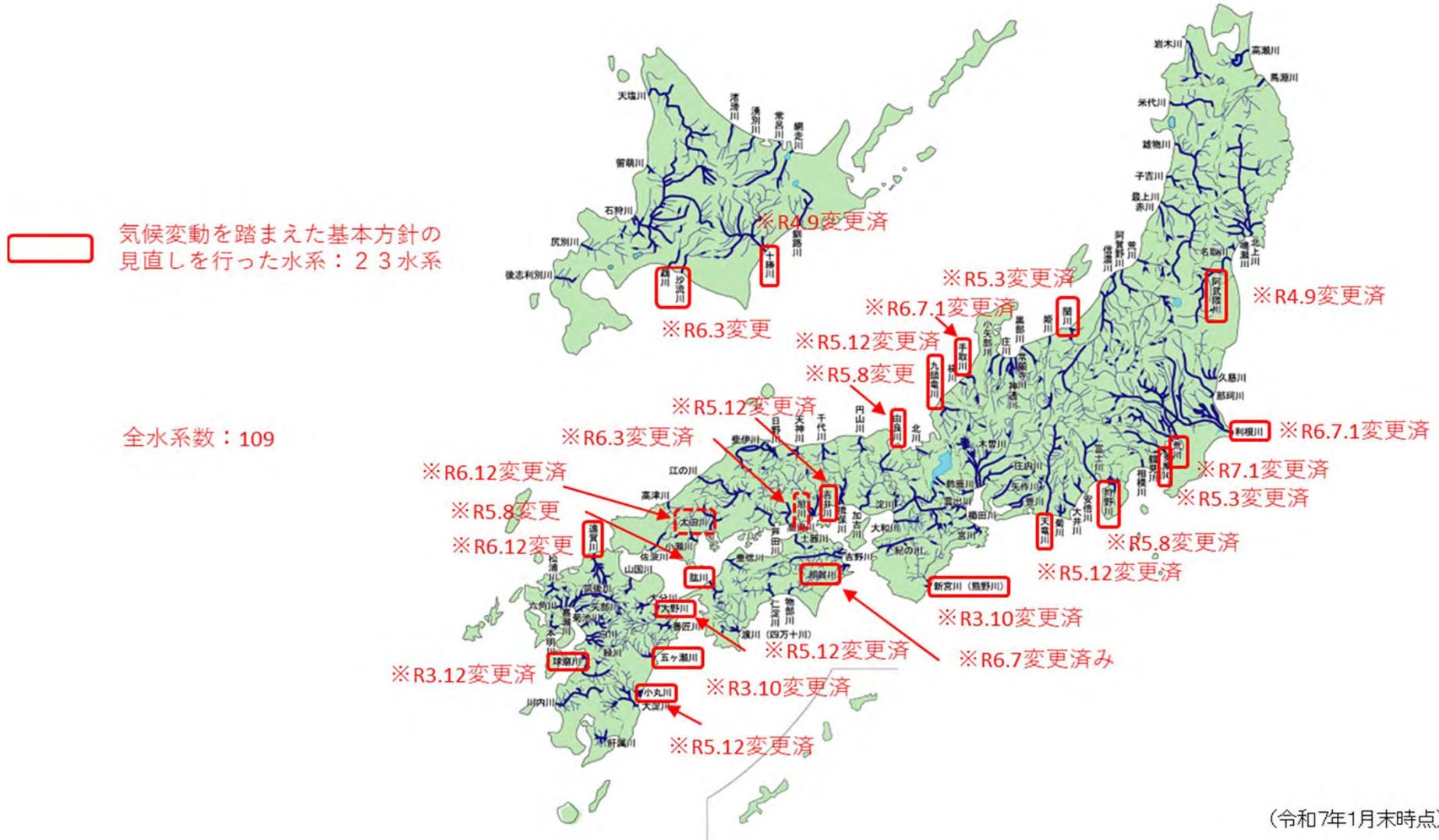
○近年の水災害による甚大な被害を受けて、施設能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える水防災意識社会の再構築を一步進め、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、流域治水への転換を推進し、**防災・減災が主流となる社会を目指す。**

これまでの対策

施設能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える、水防災意識社会の再構築
洪水防御の効果の高いハード対策と命を守るための避難対策とのソフト対策の組合せ



- 気候変動による降雨量の増大を考慮して、一級水系の河川整備基本方針の見直しを実施。
- 令和7年1月までに23水系で見直しを行っており、引き続き全国の水系において見直しを推進。
- 九州では球磨川、五ヶ瀬川、大野川、小丸川、遠賀川の5水系の見直しを実施済み。



川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

ICT技術を活用したプログラム内容の作成【川内川河川事務所】

- 川内川河川事務所では、平成25年度より防災や教育に携わる関係機関とともに、**学校教育**の中で体系的に**防災教育**を行える防災学習プログラムの開発を行い、地域防災力の核となる**人材の育成**に努めてきた。
- 近年の自然災害の頻発化・激甚化、ならびに、令和の日本型学校教育への対応を踏まえ、新たな学習プログラムへとアップデートする取り組みを進めている。
- 具体的には、文部科学省の提唱したGIGAスクール構想に伴った教育ICT環境^(※)の実現を図るため、民間とも連携し「**ICT技術を活用した川内川水防災河川学習プログラム検討会**」を開催、実際の教育現場において試行授業を実施。**年内でのプログラム完成**を目指している。

◆ 検討会(R6.7.30開催)

◆ 試行授業



<検討会メンバー>

- 育英小学校
- 可愛小学校
- 川内小学校
- 薩摩川内市教育委員会
- 薩摩川内市防災安全課
- 鹿児島市教育委員会学校ICT推進センター
- 鹿児島大学教育学部
- (株)LoiLo
- 川内川河川事務所(事務局)

※ 今回用いた教育ICT環境:「ロイロノート」

児童が考えるのを助け、その考えを人に伝えることができるICTを用いた学習ツールのこと。

(詳細は右図QRよりご確認ください。)



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	川内川水防災学習プログラムの活用推進	ICT技術を活用したプログラム内容の作成	川内川河川事務所	検討		

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

FM さつませんだいと防災情報の提供及び活用に関する協定の締結

令和5年2月22日

川内川河川事務所では、住民一人ひとりの防災行動意識の更なる向上を図るため、この度コミュニティ放送局「FMさつませんだい」と協定



川内川河川事務所



FMさつませんだい

- ・情報に**切迫感**を持たせたい
- ・情報取得の**簡素化の実現**
- ・地域住民全体を対象とした**広域な情報発信**の実現

- ・水害時河川に関する**詳しい情報を入手できていない**
- ・リアルタイムに河川情報を取得し**迅速な情報発信**

コミュニティ放送局と協力し防災情報へアクセスするためのきっかけを作る

毎月 第4水曜日 10:00～FMさつませんだい『せんだい川のほとりから』

《洪水に備える》 1～6月

出水期に向けた川内川河川事務所の取り組みや、地域の方々に取っていただきたい行動について紹介。

《川内川の魅力・見どころ》 7月～12月

川内川のおすすめスポットやイベント情報など、親しみやすい川の一面を発信。

【川内川河川事務所】

〈水位レベル2～3〉
氾濫注意水位を突破
今後さらに水位上昇の恐れ

ラジオを通じて
地域住民に情報発信

ラジオに情報提供

〈水位レベル4～5〉
氾濫危険水位に達する見込み
大規模災害発生への恐れ

河川事務所から
ラジオの中継放送

河川事務所にラジオ担当者参集

FMさつませんだいに、
リスナーから
川内川に関する投稿

河川事務所が把握
できていない情報を入手

リスナー情報をメールで確認

2

ラジオより情報発信

2

河川事務所より中継放送

2

状況把握、関係機関との共有
防災エキスパート会からの助言



台風10号時は注意喚起を実施

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災情報、避難体制の検討・連携強化	防災情報伝達における関係機関の連携強化	川内川河川事務所			

川内川水系流域治水プロジェクト

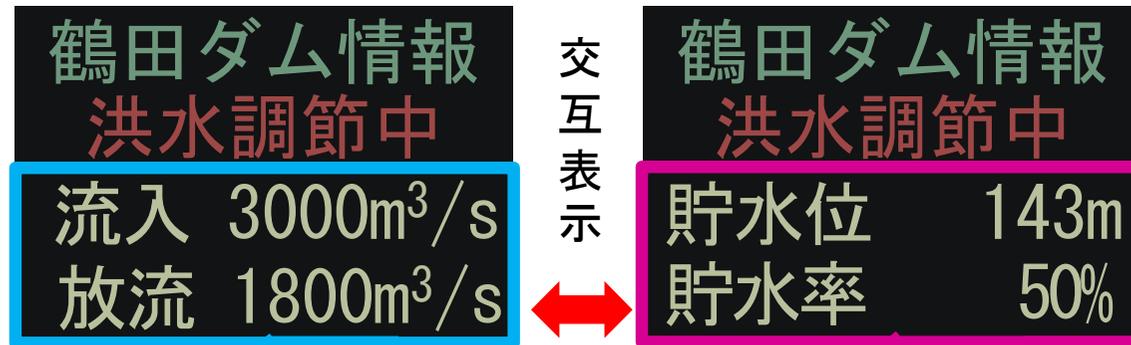
～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

情報表示板への貯水率の表示【鶴田ダム管理所】

- 鶴田ダムに関する情報として、新たに『**ダム貯水位**』と『**貯水率**』を表示できるように改良しました。
- 表示のタイミングは洪水調節開始から終了まで表示します。

現在の表示

改良案(表示の追加)

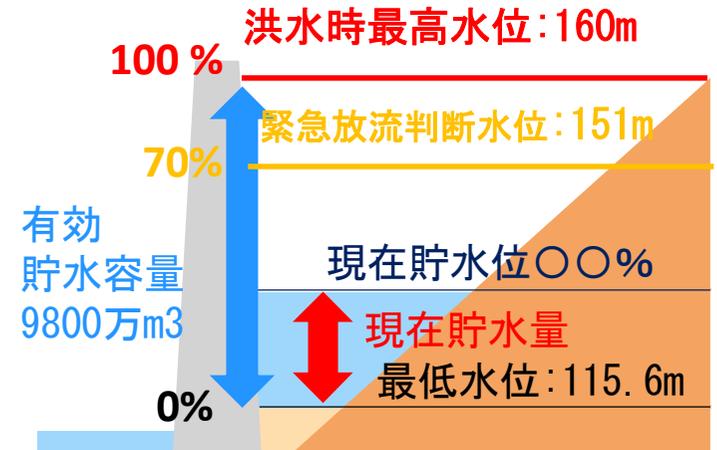


交互表示
(5秒)

ダム放流中は
流入量・放流量を表示

ダム放流中の表示に
貯水位、貯水率を追加

空き容量のイメージ



貯水率 (%)

$$= \text{現在貯水量 (m}^3\text{)} \div \text{有効貯水容量 (9800万m}^3\text{)} \times 100$$

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災情報、避難体制の検討・連携強化	水位計・監視カメラの設置、防災情報の提供等	鶴田ダム管理所	施設改造 R5	継続表示	

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

河川空間のオープン化指定(R5.10)・インフラツーリズム推進によるダム見学拡充【鶴田ダム管理所】

河川敷地の占用は、原則として公的主体(地方公共団体等)に限られており、営業活動を行うことはできません。

しかし「河川空間を積極的に活用したい」という要望の高まりを受け、平成23年に河川敷地占用許可準則(以下「準則」という。)を改正し、一定の要件を満たす場合には、特例として民間事業者等も営業活動を行うことができるようになりました。これを「**河川空間のオープン化**」といいます。

(全国108か所、九州7か所、鹿児島県内0か所 R4.3. 31現在)

今回の指定は鹿児島県ではじめて、ダム見学(河川管理施設の見学)は九州ではじめてです。

○鶴田ダム見学の運用ルール

- 1)実施主体:
さつま町「川内川大鶴ゆうゆう館」の管理事業にて実施
指定管理者: NPO法人 ひっ翔べ! 奥さつま探険隊
- 2)見学日時: 平日(火曜日を除く)、及び**第2、第4日曜日**
午前:11:00~12:00 ・午後:14:00~15:00
- 3)料 金: **1000円/1名**
※子供(高校生以下)は無料。大人同伴が条件。
※団体割引あり(26名以上)
※学校関係の社会科見学は、これまで通り無料。

○鶴田ダム見学案内ガイド 募集要項

- 1)概要
鶴田ダムの目的、役割等についてダム見学者に説明をして頂く案内ガイド募集。鶴田ダムの役割等をわかりやすく説明して頂く語り部となって頂き、地域全体で防災力強化を推進。
- 2)ガイド料: **1回あたり(準備時間含む2時間) 2400円程度**

○毎年恒例イベント「秋の大鶴湖まつりin2024」開催

鶴田ダムの
迫力の
点検放流
を見学

2024.11.24(日) 9:30~15:30(予定)

秋の大鶴湖まつり
in 2024

(開催セレモニー)

(ダム放流・堤体内見学)

(大鶴湖 遊覧船)

参加者数: 延べ約660人 (令和5年度: 延べ約400人)
主催者: 大鶴湖(鶴田ダム湖)インフラツーリズム関係者会議
(鶴田ダム管理所、川内川川事務所、九州防災エキスパート会、電源開発株、さつま町、伊佐市、ひっ翔べ! 奥さつま探険隊、パイオマスワークあたらし会、水と地球、伊佐の風)

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災学習の推進	出前講座・防災学習の実施	鶴田ダム管理所		継続実施	

川内川水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え、水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

気象庁HP利用促進、防災気象情報の改善【気象庁】

線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（情報の改善）

観測の強化、予測の強化の取組の成果を順次反映することで、線状降水帯に関する情報の段階的な改善を実施。

- 令和4年6月、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけ（広域を対象）を開始。
- 令和5年5月、線状降水帯の発生をお知らせする情報（最大30分程度前倒して発表）を開始。

令和6年5月から、半日程度前からの呼びかけについて、対象地域を府県単位に絞り込んでの運用を開始。

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ

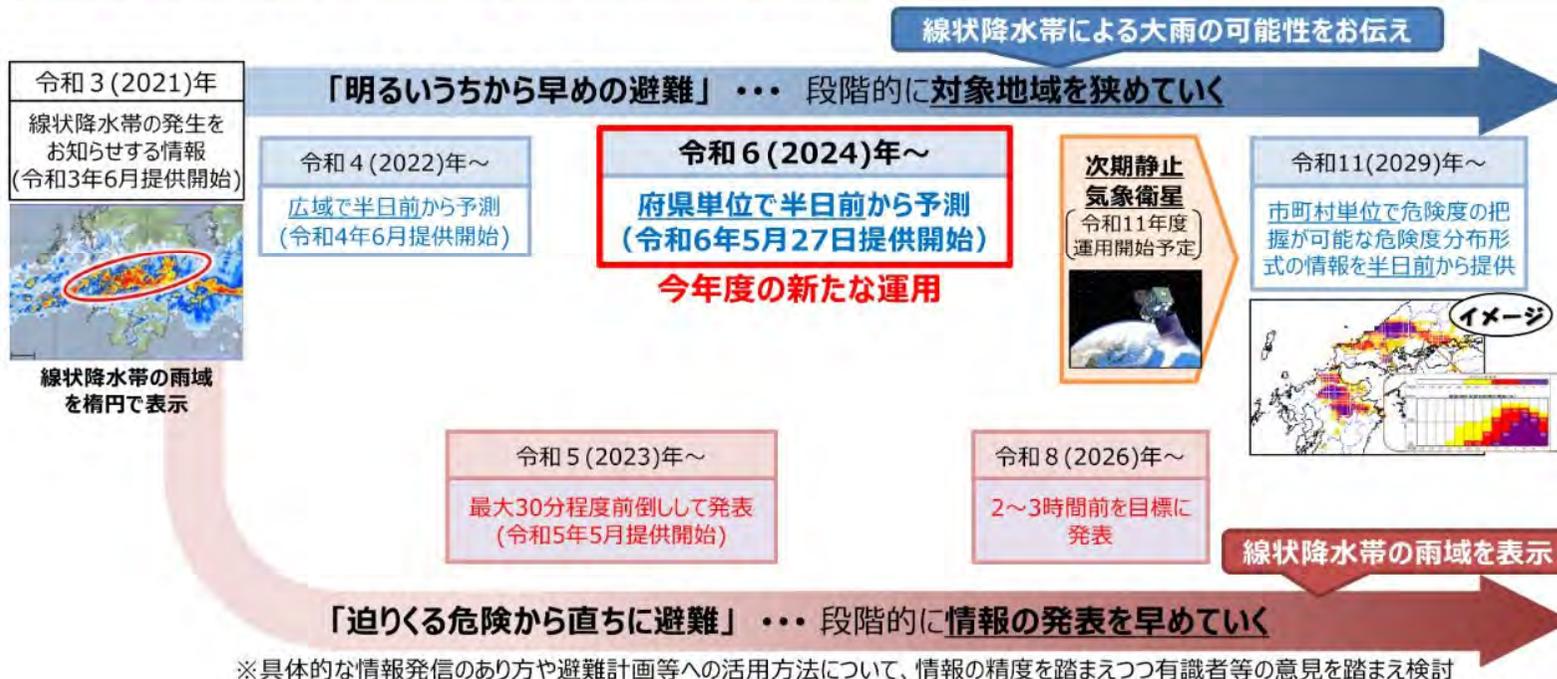
鹿児島県（奄美地方を除く）
令和6年の実績

呼びかけを行った回数 4回
線状降水帯の発生 2回
適中率 50%
捕捉率 100%

呼びかけを行った4回に対して、3回で3時間降水量最大値が100ミリを超えた

呼びかけを行った場合、線状降水帯が発生しなくても大雨となったことに留意

この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要



国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災情報、避難体制の検討、連携強化	気象庁HP利用促進 防災気象情報の改善	気象庁			

川内川水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え、水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

出前講座・防災学習の実施【気象庁】

気象庁 eラーニング教材 「大雨のときにどう逃げる」

- 新しい生活様式での**オンライン学習**に対応(教材は気象庁HPで公開)
- **マイ・タイムライン**の事前学習に最適
- 個人学習だけでなく、自治会や学校などでも活用できる教材
- 難しく考えず、**気楽**に取り組むことが可能

アドレス

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/el/dounigeru.html>



「自らの命は自らが守る」
基本の知識を動画で学ぶ

約17分



自分の避難行動を
ワークシートに整理

約30分



みんなで意見交換して
自分の避難を再確認

約30～40分

1時間の学習にピッタリ

Web会議でも実施できます

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災学習の推進	出前講座・防災学習の実施	気象庁			

川内川水系流域治水プロジェクト

～いつか必ず来る大規模出水に備え、水害に負けない地域づくりに向けて流域が一体となった防災・減災対策～

出前講座・防災学習の実施【気象庁】



防災教育支援ポータル - 10分で防災 -



福岡管区気象台HP（教材はこちら）
<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/chosa/education/10mb.html>

10分で防災

- 短時間で命を守る防災の学習
- 子どもたち自身で考え、話し合う機会をつくる
- 災害を自分のこととして考える「きっかけ」となることを期待
- 難しく考えず、気楽に取り組むことが可能
- 4現象（台風、大雨、地震・津波、火山）の教材を用意

ステップ1 考える①

ワークシート

台風が近づいたときに、
どんなことがおきかと思いませんか？

何が起きる	
ここに色々書いてください！	

ステップ1 考える②

ワークシート

台風による災害にあわないために、
どういう行動をとりますか？

何が起きる	どういう行動をする
	今度は、ここに書いてください！

ステップ2 話し合う

他人の考えを聞いて、新たな「気づき」を生み出す

台風が近づいてくると、何が起きると思いますか？

何が起きる	どんな行動をする？
水害がおこる	安全なところにひなす。
雨がたぐんぶる	進路などはあくして、
土砂くずれ	水、食べものを準備しておく
高潮川	高いところに行く。
強風	

ステップ3 振り返りとまとめ

通学路のそばを流れる小川。用水路や道路のマンホール。普段は何でもない場所が、突然の大雨で、命を落とす場所に変わることがあります。「自分の身は自分で守る」という意識を身につけましょう。

起きる災害を考える



自分の行動を考える



行動を話し合う



各班の意見をみんなで聞きましょう



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災学習の推進	出前講座・防災学習の実施	気象庁			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

森林整備による流出抑制対策・治山施設整備による土砂流出抑制対策 【林野庁 九州森林管理局 北薩森林管理署】

森林整備

人工林の多目的機能発揮のため、国有林の地域別の森林計画に基づき間伐等に取り組めます。



間伐前



間伐後

	6年度実績	7年度予定
間伐	308ha	431ha
新植	117ha	118ha

治山施設整備

地域住民の安全・安心等を確保するため、国有林の地域別の森林計画等に基づき谷止工等の予防・復旧治山に取り組めます。



施工前



施工後

	6年度実績	7年度予定
谷止工	2基	2基
山腹工	0.23ha	-

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	森林整備・保全、治山施設の整備	森林整備による流出抑制対策	林野庁	▶		
		治山施設整備による土砂流出抑制対策	林野庁	▶		

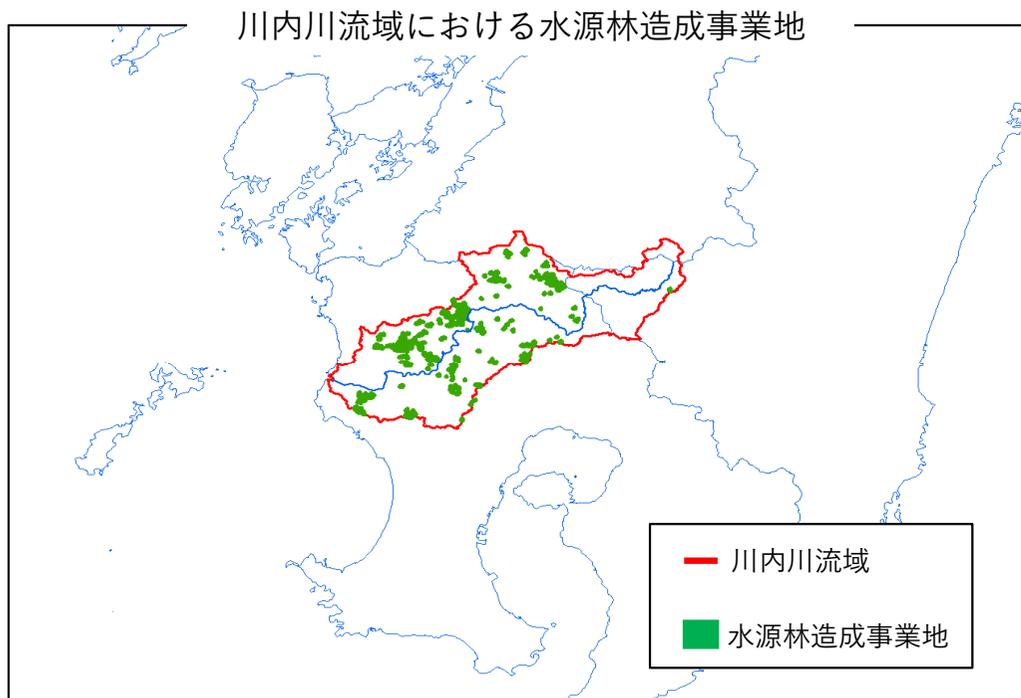
川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

森林整備による流出抑制対策

【森林研究・整備機構 鹿児島水源整備事務所】

- ・水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- ・水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- ・川内川流域における水源林造成事業地は、268箇所（森林面積 約3100ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。（令和6年度においては、間伐43ha,植栽7haを実施。）



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	森林整備・保全	森林整備による流出抑制対策	森林研究・整備機構			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

河川整備箇所【鹿児島県】

○洪水氾濫対策として、川内川下流域では麦之浦川で、上流域では針持川と羽月川、市山川、白木川、牛尾川で護岸整備や橋梁架替等の整備を進めていく。

羽月川

整備内容：築堤、河道掘削 等

■ 対策状況



麦之浦川

整備内容：築堤、護岸整備、橋梁架替 等

■ 対策状況



針持川

整備内容：築堤、護岸整備、橋梁架替 等

■ 対策状況



牛尾川

整備内容：築堤、水路橋架替 等

■ 対策状況



市山川

整備内容：河道掘削、護岸整備 等

■ 対策状況



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	築堤、護岸整備、橋梁架替 等	鹿児島県	▶		

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

河川整備箇所（災害関連事業）【鹿児島県】

○令和2年7月豪雨や令和3年7月豪雨により、家屋等の甚大な浸水被害が発生した山野川や海老川では、再度災害防止を図るため、災害関連事業により整備を行い、流下能力の向上を図った。

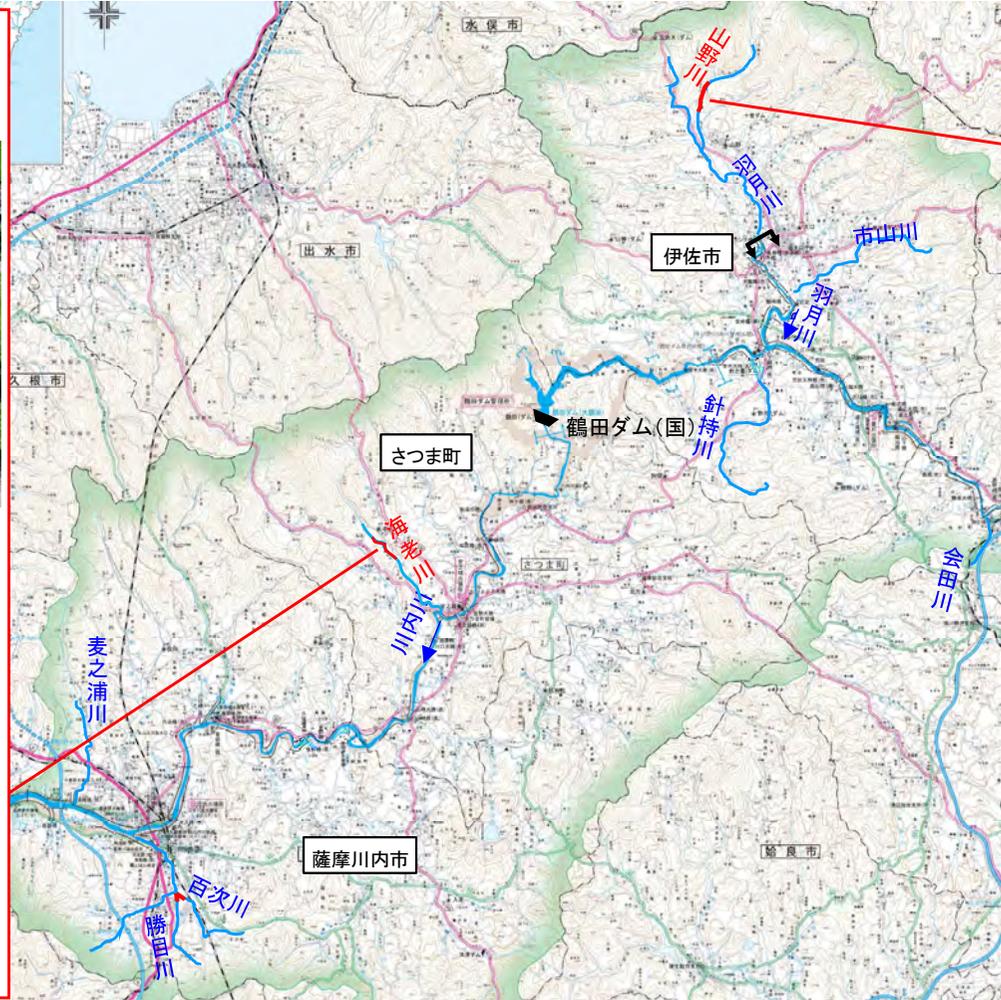
海老川(令和5年3月完成)

整備内容：堤防嵩上げ、護岸整備 等

■被災状況(令和3年7月)



■完成状況



山野川(令和6年3月完成)

整備内容：河道掘削、護岸整備 橋梁架替 等

■被災状況(令和2年7月)



■完成状況



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策(災害関連)	護岸整備 等	鹿児島県			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

河川整備箇所（災害関連事業）【鹿児島県】

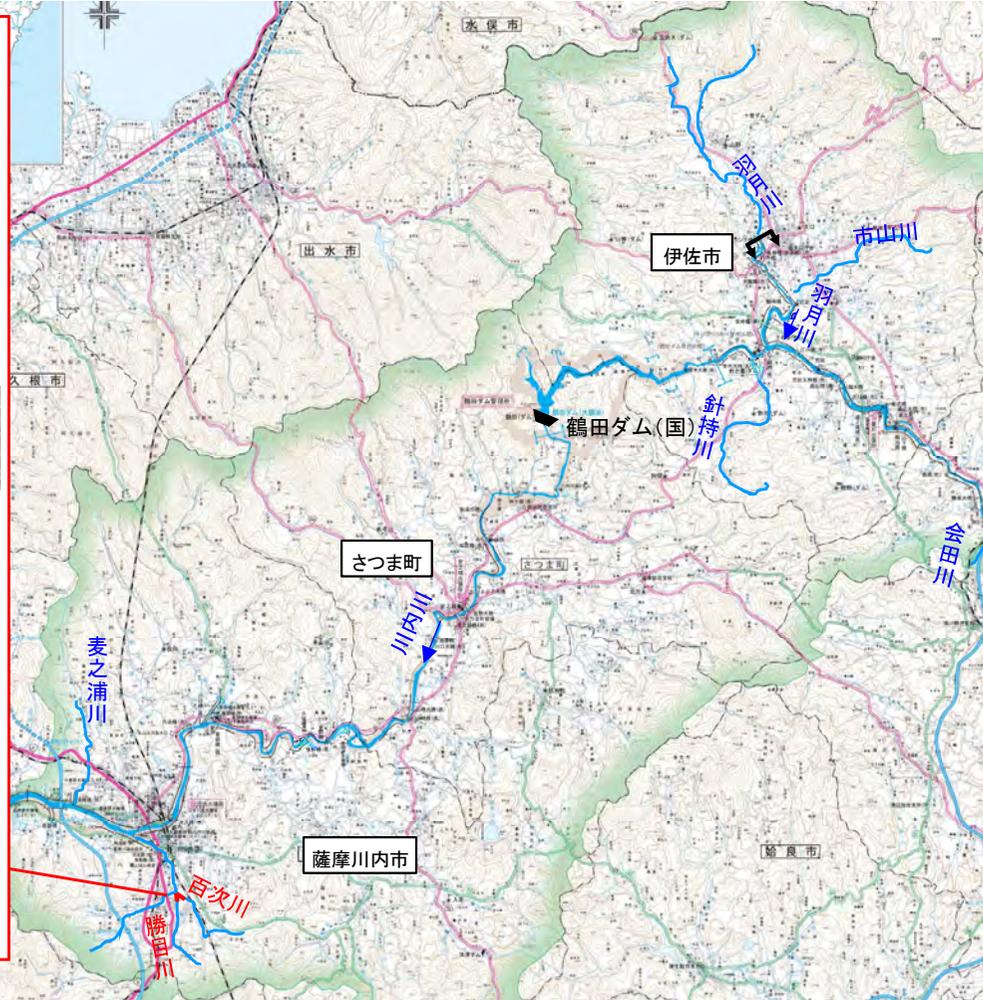
○令和2年7月豪雨により、家屋等の甚大な浸水被害が発生した百次川・勝目川では、再度災害防止を図るため、災害関連事業により整備を行い、流下能力の向上を図った。

被災状況

■ 百次川



■ 勝目川



完成状況(令和4年4月完成)

整備内容：堤防嵩上げ、護岸整備 等

■ 百次川



■ 勝目川



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策(災害関連)	護岸整備 等	鹿児島県			

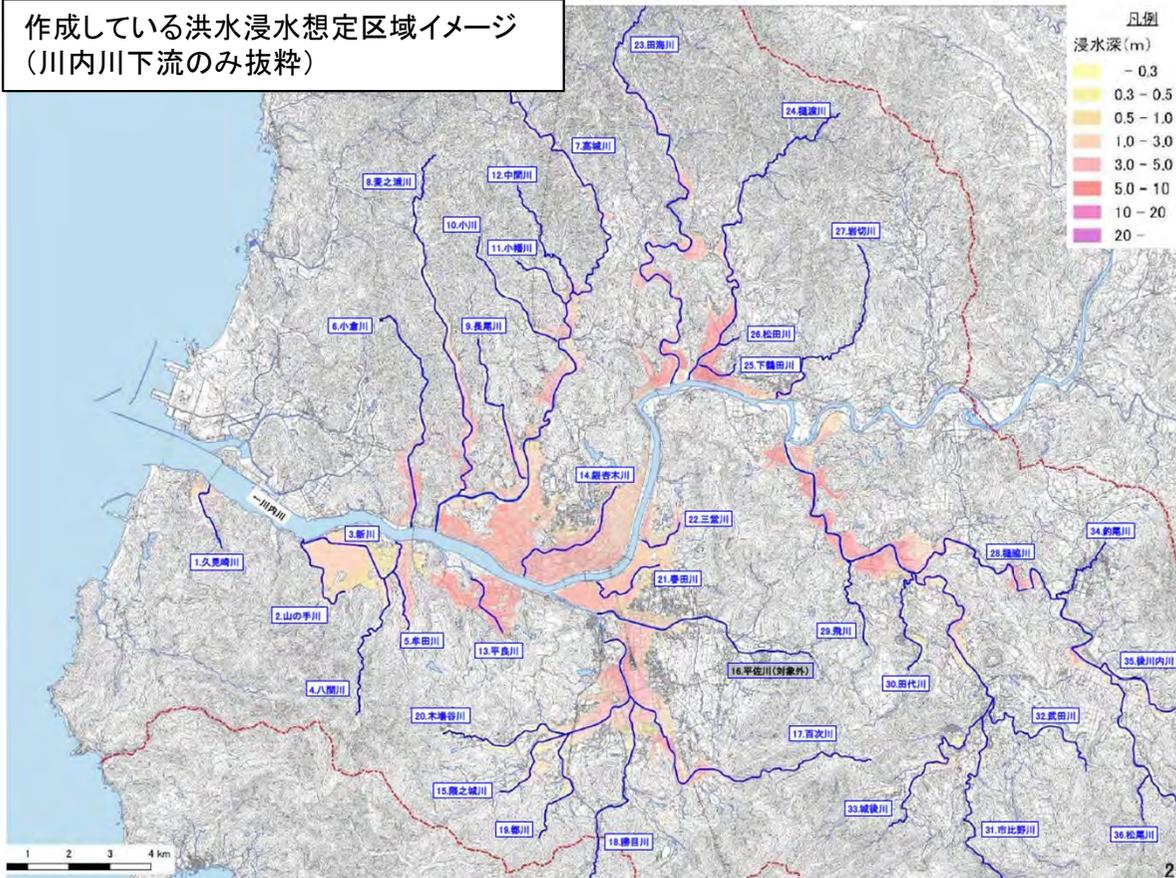
川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

洪水浸水想定区域図の作成・公表【鹿児島県】

- 令和三年に水防法が改正され、現在、鹿児島県では、管理する459河川の全てにおいて、洪水浸水想定区域の指定に取り組んでいる。
- 県としては、市町村の防災活動や住民避難が円滑に行われるよう、令和7年度までに全ての指定を完了予定。
- 作成した洪水浸水想定区域図については、県ホームページへ掲載するとともに、市町村へデータ提供等行う。

作成している洪水浸水想定区域イメージ
(川内川下流のみ抜粋)



鹿児島県 Kagoshima Prefecture

危機管理・防災 | 暮らし・環境 | 健康・福祉 | 教育・文化・交流 | 産業・労働

浸水想定区域図について

県では、大雨による河川の氾濫の危険性を皆様にお知らせし、事前の予防策（水防活動や避難行動）を進めていただくために、洪水浸水想定区域図の作成・公表を行っています。

令和3年の水防法の一部改正により、洪水浸水想定区域図の作成の対象河川が、洪水予報河川や水位周知河川から、住宅等の防護対象がある河川等に拡大されました。令和元年までに洪水予報河川や水位周知河川の洪水浸水想定区域図の作成・公表を終えたところですが、今後、これ以外の河川の洪水浸水想定区域図の作成・公表を進めていきます。

・洪水浸水想定区域（図）とは
 ・県が管理する河川における洪水浸水想定区域の指定状況
 ・国土交通省が管理する河川における洪水浸水想定区域図
 ・河川情報

洪水浸水想定区域（図）とは

洪水浸水想定区域とは、想定し得る最大規模の降雨（想定最大規模）により河川が氾濫した場合に、浸水が想定される区域のことです。

洪水浸水想定区域図とは、浸水が予想される区域および区域内の浸水深を示したものです。

洪水予報河川や水位周知河川では、河川の洪水防衛に関する計画の基本となる降雨（計画規模）により河川が氾濫した場合に浸水が予想される区域および区域内の浸水深も作成しています。

また、この図（想定最大規模）は、市町村で作成される洪水ハザードマップ（防災マップ）の基礎資料となります。

なお、洪水浸水想定区域の作成に当たっては、支川の氾濫、想定を超える降雨、高潮、内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

県が管理する河川における洪水浸水想定区域の指定状況

作成した洪水浸水想定区域図は県ホームページへ掲載するなど周知を図る。

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地のリスク情報の充実・提供	洪水浸水想定区域図の作成・公表	鹿児島県	▶		

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

出前学習・防災講座の実施【鹿児島県】

鹿児島豪雨災害30年シンポジウム
～あの大災害を忘れない～
激甚化・頻発化する災害に備えて



日時 2023年 7月20日(木)
13:30～16:30 (開場 12:00)

会場 かがしま県民交流センター (1F) 県民ホール (鹿児島市山下町 14-50)

参加費 無料

基調講演 13:40～14:20
『鹿児島豪雨災害から30年 防災対策の現状と課題』
下川 悦郎 鹿児島大学名誉教授
本講演では、改めて一連の災害の特徴と教訓について振り返るとともに、30年間で鹿児島県の豪雨災害対策はどこまで進んだか、残された課題は何か、について考えたいと思います。

パネルディスカッション 14:30～16:30
『あの大災害を忘れない』
パネリスト
下川 悦郎 鹿児島大学名誉教授
酒匂 一成 鹿児島大学学術研究院 理工学域工学系教授
平山 久貴 鹿児島地方気象台 気象防災情報調査官
堀之内 広子 鹿児島県防災アドバイザー
松崎 憲昭 元鹿児島国道工事事務所長
知識 博美 元薩摩川内市副市長 元鹿児島県土木部職員
谷口 浩幸 元鹿児島県土木部職員
安原 達 鹿児島県土木部長

司会・進行 小田 都由 KKB 鹿児島放送アナウンサー

主催：鹿児島県 共催：(公財)鹿児島県建設技術センター
後援：NPO法人鹿児島防ボランティア協会 (一社)鹿児島県建設業協会 (一社)鹿児島県測量設計業協会 (一社)鹿児島県地質調査業協会 (一社)鹿児島県建設コンサルタンツ協会



シンポジウムの開催 (R5)



県政出前セミナーの実施 (R5介護施設)
テーマ：流域治水



県庁ロビーでのパネル展示



県政出前セミナーの実施 (R6国分高校)
テーマ：流域治水

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	出前講座・防災学習の実施	防災啓発シンポジウム等	鹿児島県			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

治山施設整備による土砂流出抑制対策 等【鹿児島県】

- 人工造林（再造林）などの森林整備を行い、保水機能の維持を通じて、土砂や流木等の流出抑制を図る。
- 治山施設の整備による森林の復旧を行い、下流への土砂流出抑制を図る。

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 森林整備による流出抑制対策
- ・ 治山施設整備による土砂流出抑制対策

【森林整備イメージ】

人工造林（再造林）



間伐

整備前

整備後



【治山施設整備イメージ】

豪雨等に伴う山地災害



治山施設の整備（溪間工・山腹工）



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	森林の整備・保全 治山施設の整備	森林整備による流出抑制対策	鹿児島県・市町 ・森林組合 等	[Red bar indicating implementation period]		
		治山施設整備による土砂流出抑制対策	鹿児島県	[Red bar indicating implementation period]		

川内川水系流域治水プロジェクト

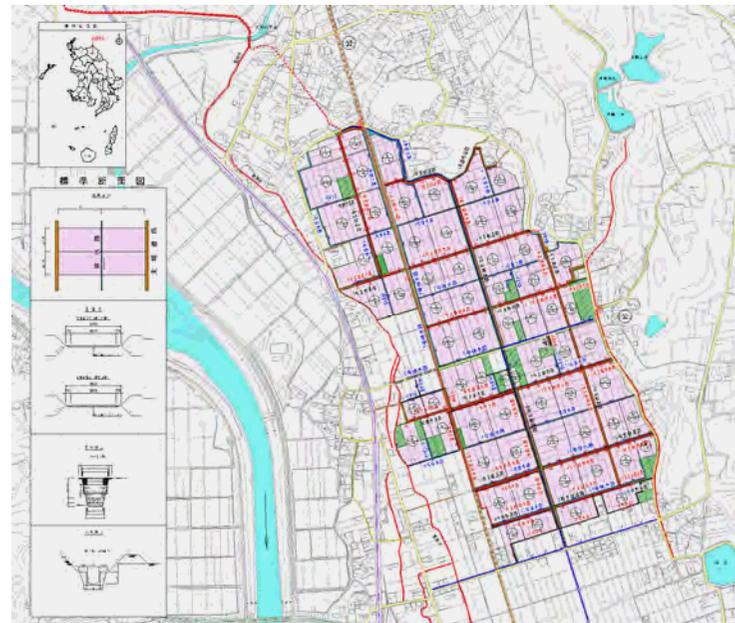
～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

雨水貯留施設の検討・整備（ほ場整備による機能向上等）【鹿児島県】

農業農村整備事業を計画的に実施し、農業の多面的機能を発揮

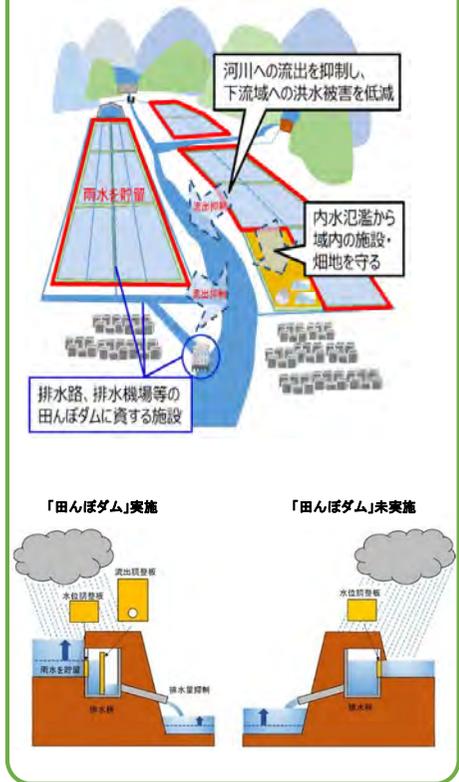
○ ほ場整備により農地の区画拡大を実施する中で排水柵(ます)を整備し、水田がもつ貯留機能を向上

農業農村整備事業【位置図】



実施内容	受益面積	地区名	備考
ほ場整備	46.8ha	大田地区	R6～

田んぼダムの取り組み



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能の向上	雨水貯留施設の検討・整備	鹿児島県			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

いのちとくらしを守る土砂災害対策の推進 【宮崎県小林土木事務所】

土砂や流木の流出及び急傾斜地の崩壊による土砂災害を防止するため、砂防堰堤及び急傾斜地崩壊対策施設の整備を進める。

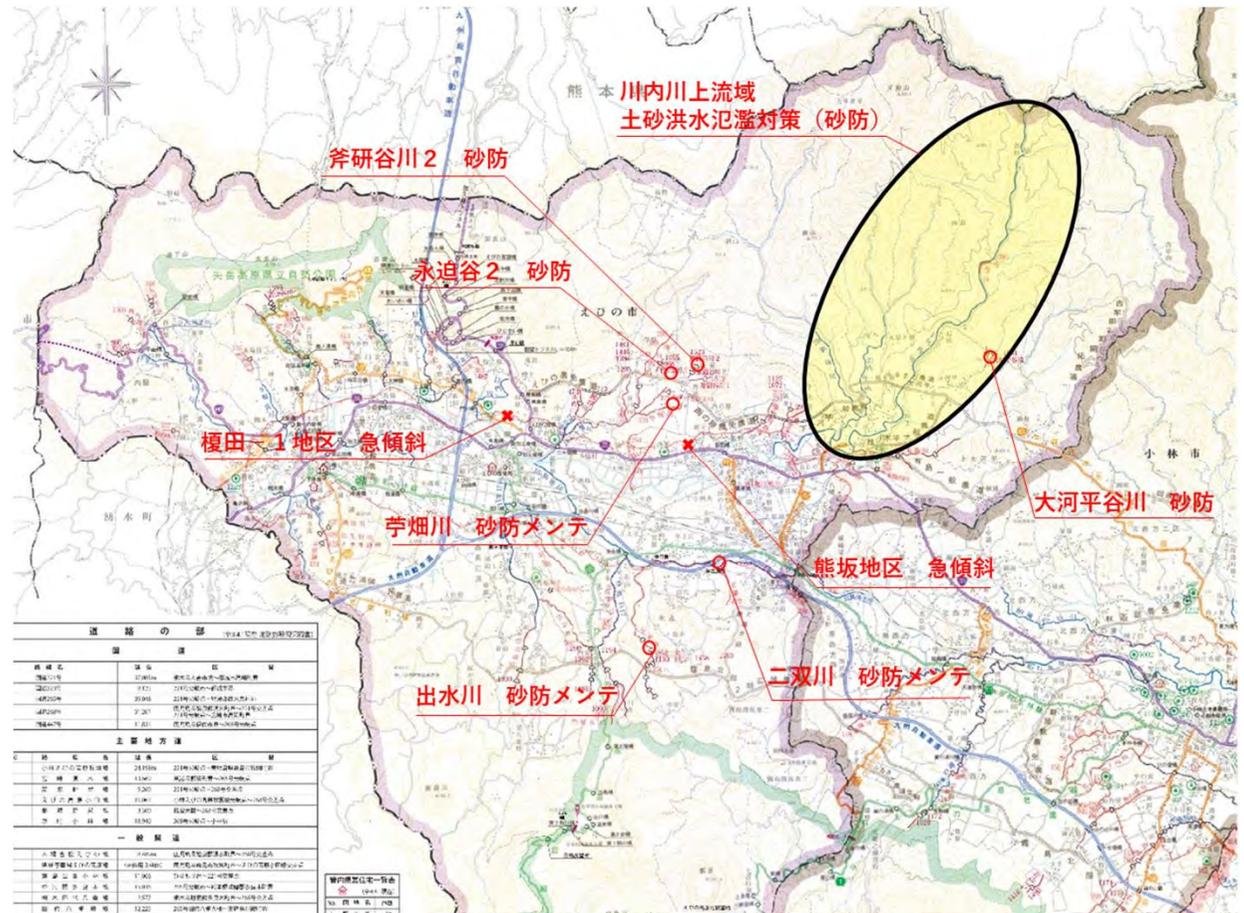
整備箇所

- ・砂防 7溪流
- ・急傾斜 2箇所

砂防堰堤写真(斧研谷川2)



急傾斜写真(榎田-1地区)



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	土砂災害対策	いのちとくらしを守る土砂災害対策の推進	宮崎県			

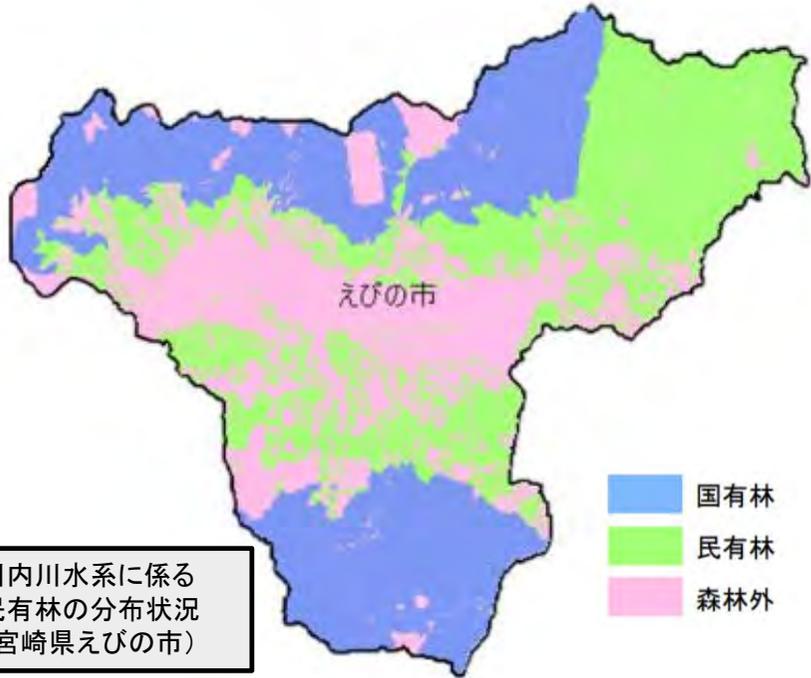
川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

森林整備による流出抑制対策

【宮崎県西諸県農林振興局】

- 取組名 河川上流域(民有林)における防災・保水機能を発揮させる森林整備・治山対策
- 事業名 森林整備事業・治山事業
- 取組状況 再造林、保育(下刈り、間伐等)、治山ダム、山腹工等



【川内川流域の森林の状況】 (えびの市)

森林面積: 20,209ha
 国有林: 10,811ha
 民有林: 9,398ha

【川内川流域の森林保全・整備の実施状況】
 (令和5年度)

再造林: 80ha 山腹工: 5箇所
 下刈り: 198ha
 除間伐: 86ha

【流域治水への事業効果等】

(保水機能効果)
 荒廃した人工林を間伐することにより、土壌の孔隙量が増え、保水機能が向上する。

(防災・減災効果)
 間伐等の適切な森林整備により、下層植生が繁茂し、降雨に伴う土砂流出を抑制するほか、流木の流出等による被害を防止する。
 伐採後の速やかな再造林により、裸地化による水土保持機能の低下を防止する。
 治山ダムや山腹工により土砂や流木等の流出を防止するとともに保安林の整備により、森林の水源涵養機能や洪水緩和機能等を発揮させる。

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	森林の整備・保全、治山施設の整備	森林整備による流出抑制対策等	宮崎県	▶		

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

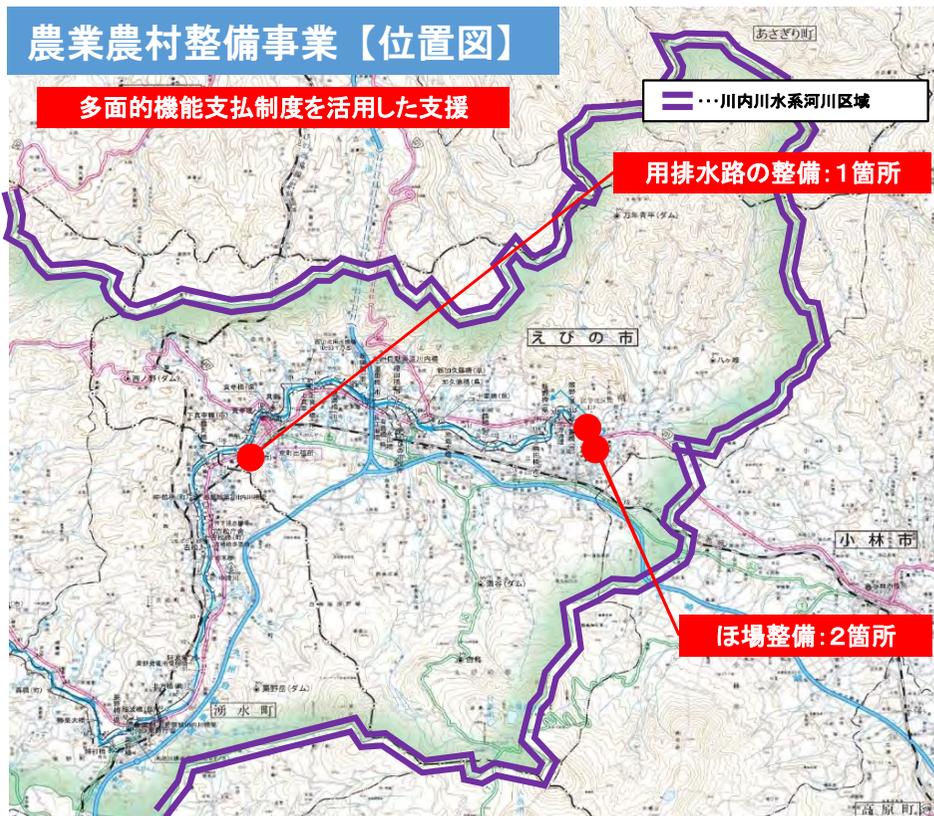
雨水貯留施設の検討・整備（ほ場整備等による機能向上等）

【宮崎県西諸県農林振興局】

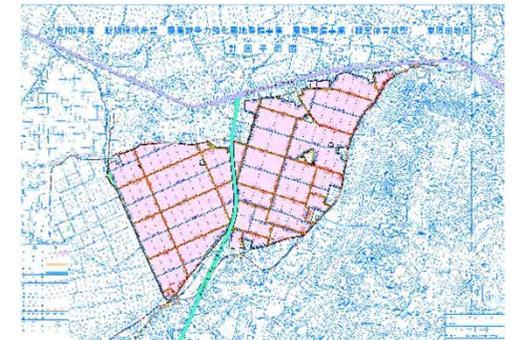
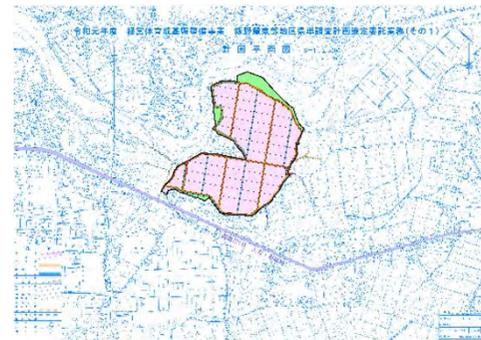
農業農村整備事業を計画的に実施し、農業の多面的機能を発揮

- ほ場整備により農地の区画拡大を実施する中で排水柵(ます)や排水路を整備し、水田がもつ貯留機能を向上
- 用排水路を整備することで山腹からの雨水をスムーズに排水し、周辺地域の被害を軽減

農業農村整備事業【位置図】



実施内容	受益面積	地区名	備考
ほ場整備	58ha	東原田(R2)、飯野麓東部(R5)	R2～
用排水路整備	42ha	亀沢 (R6)	R6～



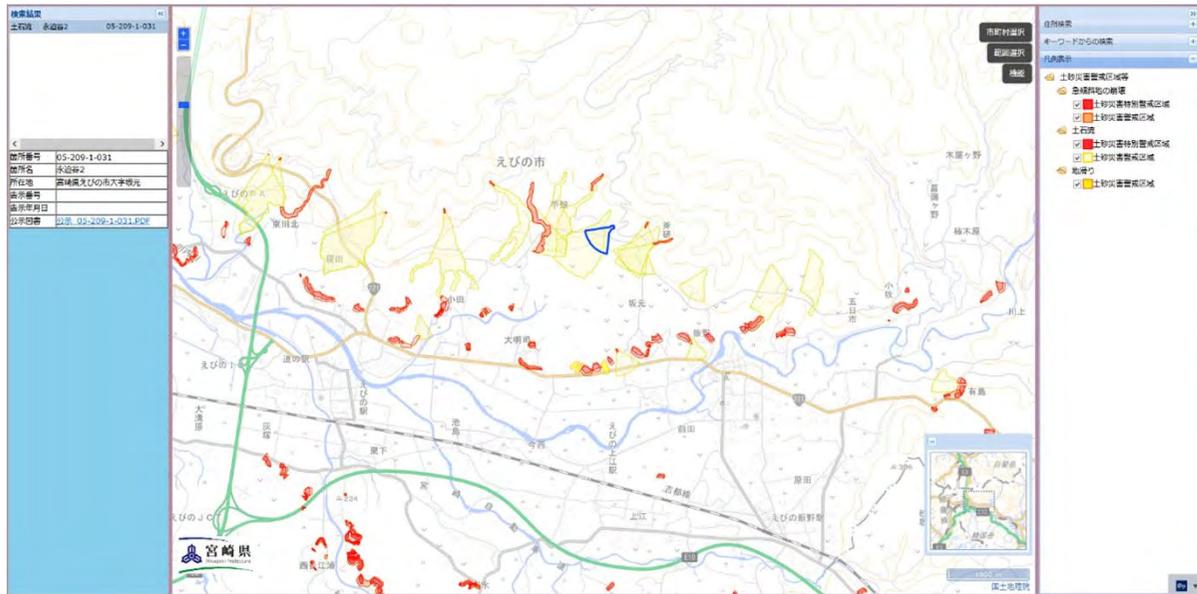
区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能の向上	雨水貯留施設の検討・整備	宮崎県			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

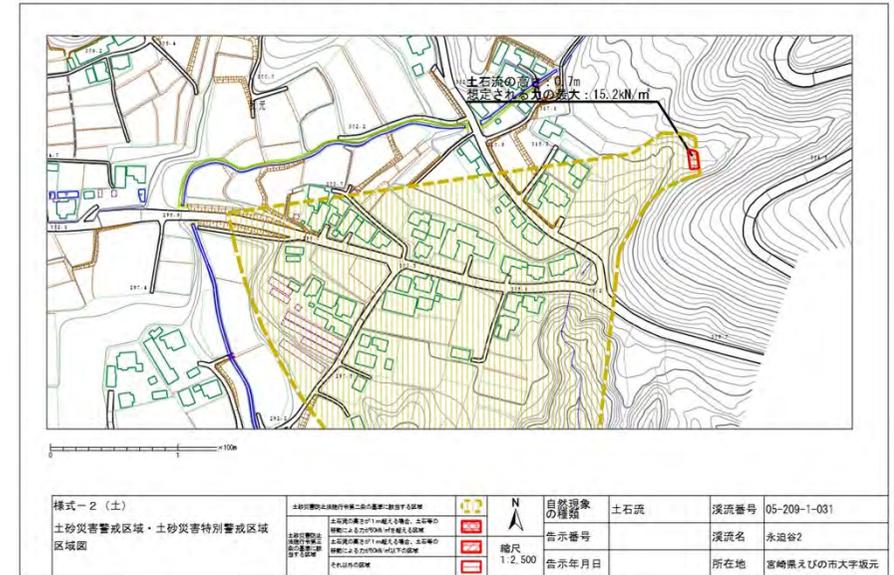
土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実化 【宮崎県小林土木事務所】

- 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(土砂災害防止法)に基づき、土砂災害により被害を受けるおそれのある場所の地形や地質、土地の利用状況等の基礎調査を令和元年度までに実施
- 令和6年3月末時点で、土砂災害警戒区域を230箇所、土砂災害特別警戒区域を200箇所を指定(えびの市)
- 現在、2巡目の基礎調査を実施しており、土地の改変等が確認された箇所については、順次指定箇所の見直し等を行っていく
- 指定箇所については、県HPで公表するとともに、市町村に情報提供を行い、ハザードマップへの反映を依頼



県HPで土砂災害警戒区域等マップを公表
(HP: www.sabomap/miyazaki)

土砂災害警戒区域等の指定の公示に係る図書 (その2)



公表されている公示図書の一部

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	リスクの低いエリアへ誘導/住まい方の工夫	土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実化	宮崎県			

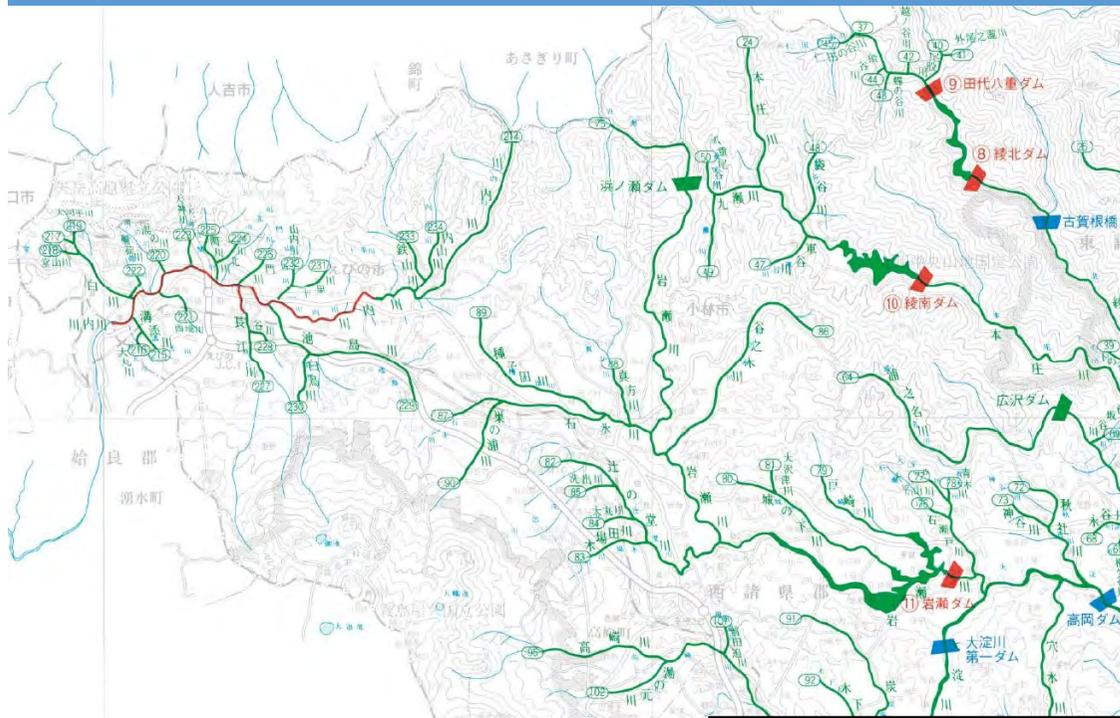
川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

未策定区間の浸水想定区域図作成 【宮崎県小林土木事務所】

- 洪水浸水想定区域図の未作成河川について、令和7年度までに浸水想定区域図を作成し、水害リスク情報空白域を解消していく。
- 作成した洪水浸水想定区域図データを提供する。

洪水浸水想定区域図のない水害リスク情報空白域の解消

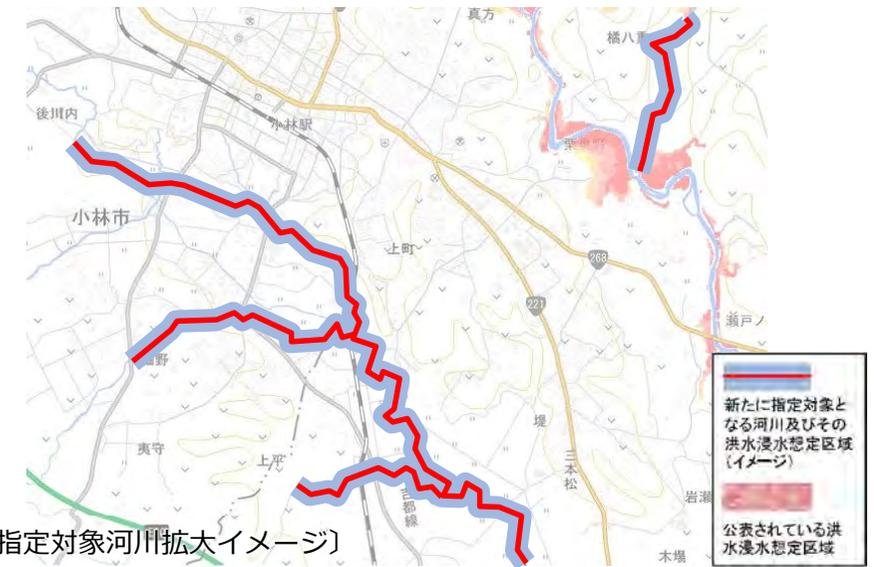


<凡例>
 ■・・・直轄区間（指定区間外）
 ■・・・県管理区間（指定区間）

<小林土木事務所管内>

県管理河川数	51 河川
浸水想定区域を公表済の水位周知河川	2 河川
今後浸水想定区域図を作成する小規模河川 ※	50 河川

※水位周知河川のうち未作成区間がある1河川を含む



〔指定対象河川拡大イメージ〕

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地のリスク情報の充実・提供	未策定区間の浸水想定区域図作成	宮崎県			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

出前講座・防災学習の実施 【宮崎県危機管理課】

- 防災士養成研修…災害時において最も重要な「自助・共助」を推進するため、地域防災の核となる防災士を養成している。
- 防災士出前講座…自主防災組織や自治会、学校や企業に防災士を講師として派遣する出前講座を実施し、地域の防災力を向上させている。

宮崎県防災士養成研修

・令和6年4月末現在の防災士数
 〈宮崎県〉 **7,088名** (人口10万人当たり682名)
 〈全国〉 280,985名 (人口10万人当たり225名)

・防災士数の順位
 全国…**14位** 九州…**3位** (福岡、大分に次ぐ)
 ※人口10万人比では、**全国6位**



宮崎県防災士出前講座

・養成してきた防災士を活用し、自治会や自主防災組織等で実施する研修等に防災士を講師として派遣する。



出前講座の主な内容

- 地震・津波についての基礎講座
- 気象・火山についての基礎講座
- 家具固定に関する講座・実習
- 地域の地図を用いたワークショップ
- 避難所運営ゲーム等を用いた防災学習

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	出前講座・防災学習の実施	防災士養成研修・防災士出前講座等	宮崎県	➔		

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

防災啓発 【宮崎県危機管理課】

- 宮崎県防災の日（5月第4日曜日）における普及・啓発事業
- 防災週間（8月30日～9月5日）における普及・啓発事業

令和5年度宮崎県防災の日(令和5年度は5/28)における啓発事業

より多くの人に防災に触れてもらい(見て、聞いて、体験して)、興味関心を持ってもらうため、イオンモール宮崎にて防災の日フェアを開催した。

宮崎県 防災の日 フェア

令和6年 5/26 日 10:00~16:00

場所: イオンモール宮崎ヒナタテラス 及び 駐車場

※雨天時は出展内容に変更がある場合がございます。

活動内容:

- 消火体験
- 子ども制服撮影
- 防災グッズ展示
- 避難所体験
- 防災関係車両展示
- 団体紹介・相談ブース

防災ワークショップと防災ゲーム

北側駐車場

みやざき犬 防災クイズ ヒナタテラス

キッチンカー

主催: 宮崎県 危機管理課 共催: イオンモール宮崎/AEON MALL

(チラシ)



(ヒナタテラス)



(北側駐車場)

令和4年度防災週間における啓発事業

台風シーズン前に、CM、ショートムービーを2種類作成し、テレビ、SNS広告等で啓発した。

- ①避難情報の周知、避難場所・避難のタイミング
- ②備蓄・非常持出品

宮崎県広報 広西・幸

これからいよいよ台風シーズン。風水害のリスクが高まります。大切な命を守るため、避難情報に「もっと見る」

声かけあい、早めの避難を!!

宮崎県 防災週間8月30日～9月5日

pref.miyazaki.lg.jp

宮崎県 防災週間 8月 30日～9月5日

詳しくはこちら

いいね! コメント シェアする

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	住民自らの避難行動に資するためのリスク情報の共有	防災啓発 等	宮崎県			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

出前講座・防災学習の実施 【宮崎県小林土木事務所】

- 毎年6月の土砂災害防止月間を中心に宮崎県では、防災意識の啓発を図るため、小中学生を対象とした「土砂災害防止教室」、地区住民を対象とした「土砂災害防止講座」を開催している
- 「土砂災害防止教室」では土砂災害の啓発に加え、防災に関連するものとして洪水に関しハザードマップを紹介し、将来を担う世代の防災意識の向上に取り組んでいる

土砂災害や洪水に対する啓発活動

- パワーポイントや土砂災害の模型を使用し、土砂災害の発生メカニズムや砂防施設効果について説明



土砂災害防止教室
(土砂災害の危険性の説明)



土砂災害防止講座
(急傾斜地の説明)



土砂災害防止講座
(パワーポイントを使用した説明)



土砂災害防止講座
(パワーポイントを使用した説明)

【土砂災害防止教室】

取組実績	実施校数		参加者数	
	事務所管内	内:えびの市	事務所管内	内:えびの市
令和6年度	1校	1校	32名	32名

【土砂災害防止講座】

取組実績	実施地区数		参加住民数	
	事務所管内	内:えびの市	事務所管内	内:えびの市
令和6年度	3地区	3地区	55名	55名

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災学習の推進	出前講座・防災学習の実施	宮崎県	▶		

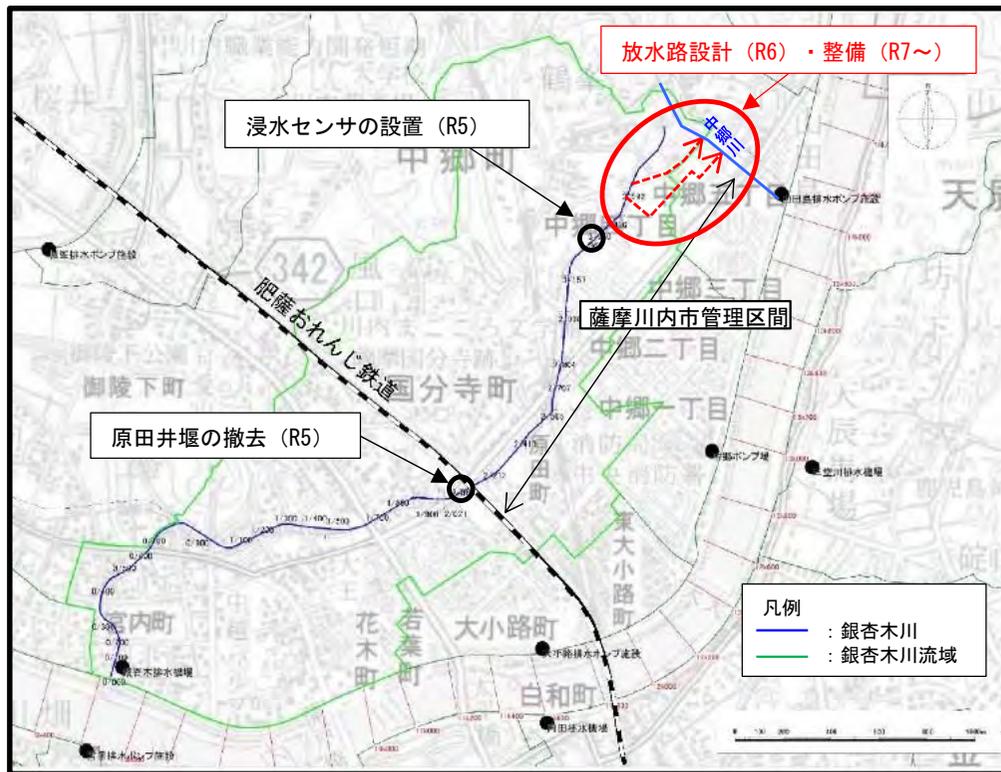
川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

銀杏木川の内水対策検討【薩摩川内市】

- R4年度に「川内川の総合的な内水対策を考える連絡会」において実施した銀杏木川流域における検討結果を踏まえ、令和5年度は、銀杏木川流域における内水被害軽減にむけ、ハード対策として原田井堰を撤去し、ソフト対策として浸水センサを設置した。
- R6年度は内水被害軽減のため、銀杏木川上流部における中郷川への放水路整備を計画し、令和7年度以降に放水路を整備する予定である。

銀杏木川流域にける対策状況



令和5年度



原田井堰の撤去 (R5)



センサの設置 (R5)

令和6年度



H30.6



R2.5

近年の銀杏木川周辺における浸水状況

○銀杏木川の上流部では降雨時に頻繁に道路冠水が発生。

○浸水被害軽減のために、銀杏木川から中郷川への放水路整備を計画。

区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能の向上	支川の流出抑制対策等 (銀杏木川の内水対策)	薩摩川内市			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

浸水センサの設置(浸水状況共有システムの構築)【薩摩川内市】

- 近年、激甚化・頻発化する災害において、同時多発的に起こる浸水の状況把握は困難であり、初動対応の遅れなどが課題であった。
- そのため、迅速な避難等の判断の材料とすることを目的として、市内の浸水危険箇所に浸水センサを設置し、浸水検知情報を市民に公開している。また、浸水の状況をいち早く察知することで、水防活動や適切な防災業務の実施に役立っている。

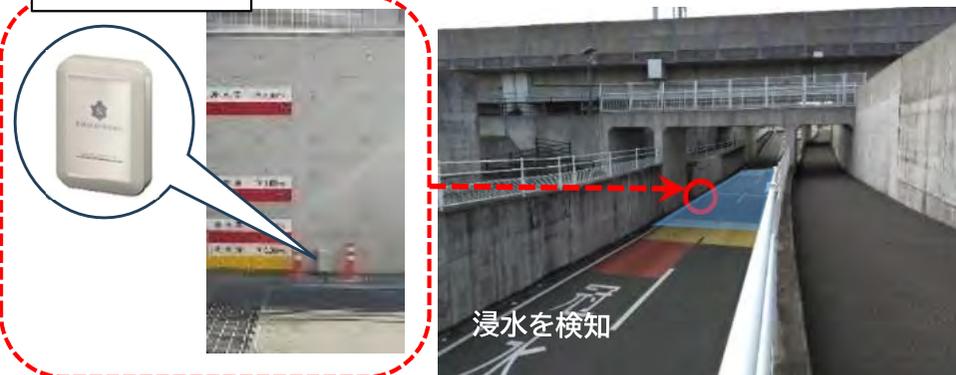
浸水危険箇所の整理



- ポンプ施設付近 → 浸水の危険が高い箇所。
- アンダーパス → 周囲の路面より低く、豪雨時に冠水の危険がある箇所
- 早期浸水箇所 → 豪雨時に道路冠水が発生しやすい箇所

浸水センサ設置

<浸水センサ設置状況>



浸水状況共有システム

<浸水通知画面>



通知を希望するセンサを選択(通知をON)すると、該当センサが浸水時にプッシュ通知でお知らせ!

R6年度の浸水センサ活用状況

○通知設定の登録者数

【センサ運用開始
発表後(R6.3月末)】 705人 → 【R6.12月末時点】 1612人

出水期等に利用者増加!
多くの住民が活用!

○センサからの通知件数

計67回 (R6.12月末時点)

市民: 避難の判断材料
市役所: 交通規制等の対応



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	総合的な内水対策の検討	浸水センサの設置 (浸水状況共有システム構築)	薩摩川内市	R5設置・運用開始	運用・(必要に応じて)見直し	

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

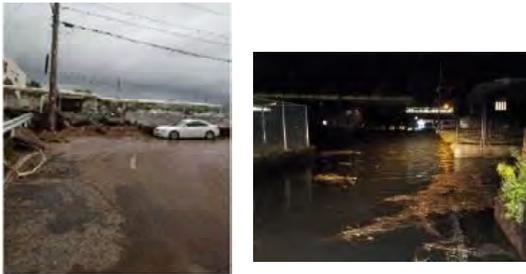
排水路整備事業(山之口地区)【薩摩川内市】

○令和2年7月の豪雨により、薩摩川内市隈之城町周辺において3河川（隈之城川・百次川・勝目川）の水位が急激に上昇したことにより、堤防越水・堤防波堤が発生し、同町内の生活道路及び住宅の内水被害が発生した。
 ○そのため、被災時の条件を基に内水解析を実施した結果、矢倉排水ポンプ施設への雨水流入を分散・減少させる目的で被災地上流の山之口町内に排水路整備を行うこととした。令和6年度は排水路の設計を実施し、令和6～7年度にかけて、排水路整備を実施する。

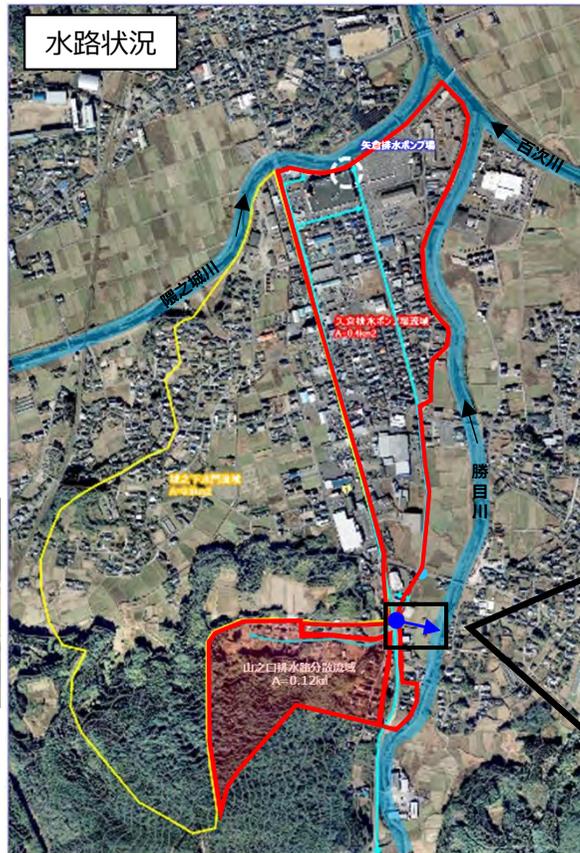
令和2年7月浸水状況



浸水状況調査で浸水高さを確認



夜間は水位が高く、漂流物も多数見受けられた



排水路計画図

- 勝目川へ放流することで矢倉排水ポンプ施設の負荷軽減
- 道路排水による内水被害軽減にもつながる



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	総合的な内水対策の検討	排水路網の改善	薩摩川内市			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

被害対象を減少させるための対策(防災情報の提供ほか)【さつま町】

■ 対策の内容

- ① 洪水警報、氾濫注意情報など防災情報を自動配信に更新
外国語及びやさしい日本語の対応を追加し、外国人などにも配慮
- ② 自主防災組織の訓練やマイタイムライン、防災計画の作成などを支援
- ③ 自主防災組織が自主的に開設する地域住民がより身近な届出避難所を推進
現在 16ヶ所登録
- ④ 防災士の資格取得を助成(自己負担なし)
R5年度 3名に助成

NEWS

01 安全安心メールをリニューアル!

二次元バーコードから手続きください。(空メール送信) →
天気、地震および川内川など防災に関する情報をメールで受け取ることができます。
メールの登録をお願いします。

※ 迷惑メール設定をされている方は受信の設定が必要です。



日本語

その他の言語はこちら



やさしい日本語
(にほんご)



English
(英語)



Tiếng Việt
(ベトナム語)



繁体中文
(中国語 | 繁体字)



简体中文
(中国語 | 简体字)



한국어
(韓国語)



地域防災力強化をめざす3つの取り組み

1 自主防災力強化事業 自主防災力を強化します

「毎回行っている訓練に補助金を活用しました。地震や避難に支援を必要としている方の確認などいつ起こるかわからない災害に備えています。(五日町公民会長)」
補助対象…防災訓練の経費、自主防災組織の結成、防災センターなどへの研修、地域の防災計画策定など



宝くじ助成事業による資機材の整備もあります

2 届出避難所運営事業 避難を地域で取り組みます

自治公民館などを避難所として登録し、避難する取り組みが始まっています。「地域内の人々が身近な場所で避難しているため、ストレスが少なく避難していると思います。災害の種類にもよりますが、今後も積極的に届出避難所を開設する予定です。(黒鳥公民会長)」



開設に対して町は補助金で支援しています

3 防災士資格取得支援事業 防災士が活躍します

災害時だけでなく、防災・減災の知識と意識のある防災士を町内で増やし、地域で活躍する場をつくります。



防災士の研修費+旅費を補助します

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

総合的な内水対策の検討【伊佐市の事例】

大雨時に内水氾濫が発生する地域の樋門付近に緊急内水対策車配備及び水中ポンプを設置し、内水を汲みあげる事で内水氾濫を防止する。

《国》緊急内水対策車配備状況



《市》ポンプ設置状況



内水氾濫状況



《国》緊急内水対策車排水状況



《市》ポンプ排水状況



	国		市					
	配備箇所	緊急内水対策車	設置箇所	10時ポンプ (市所有)	8時ポンプ (リース)	発電機 (リース)	設置・撤去委託	ポンプ操作員
令和6年度	3	3	16	10	25	24	業者	職員及び一部業者
令和7年度	3	3	16	12	21	24	業者	職員及び一部業者
増減	0	0	0	2	△4	0		

令和6年度に10時ポンプ2基を機器購入。(製作時間等を要し、出水期後の納入となった。)
令和7年度から購入ポンプを配備する計画である。

具体的内容

大雨時に河川の水位が上昇すると、河川から水路への逆流防止のため水門閉操作をする事により内水が河川に流れず内水氾濫が発生する。そこで、樋門付近に緊急内水対策車配備及び内水対策用ポンプを設置し、水門閉操作時にポンプを稼働させ内水を河川へ流し内水氾濫を防止する。

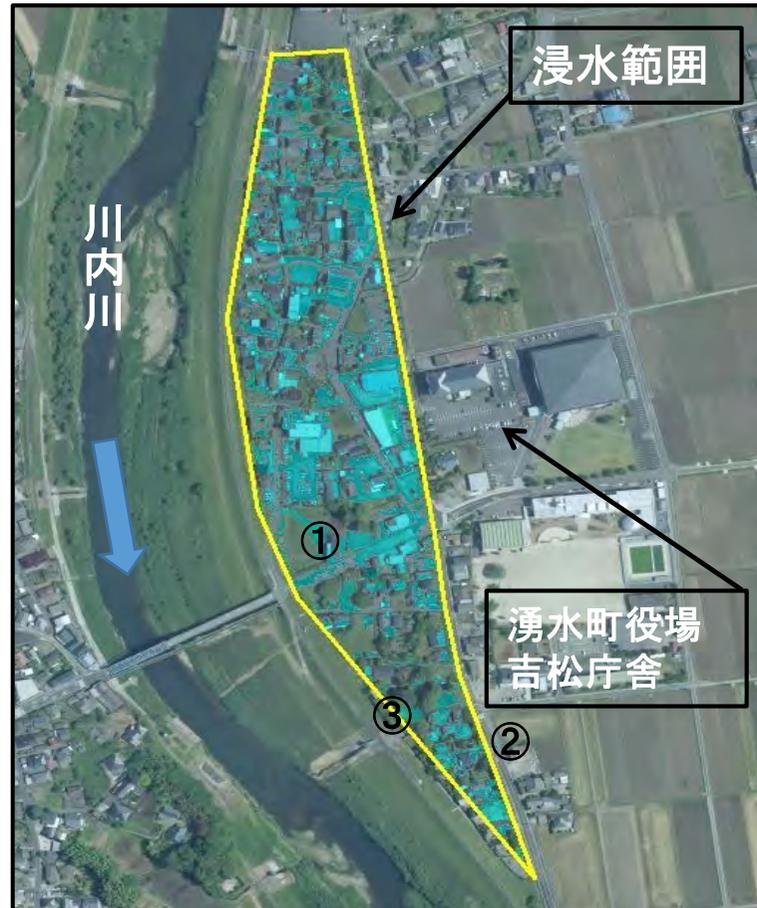
区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	氾濫域での対策	総合的な内水対策の検討	伊佐市			

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

総合的な内水対策の検討【湧水町】

大雨時に内水被害が発生する地域の樋門に排水ポンプを5月から12月まで常設し、内水被害の発生を軽減する。



区分	対策内容	実施内容	事業主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	氾濫域での対策	内水対策排水ポンプ設置	湧水町	R4～実施		

川内川水系流域治水プロジェクト

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

地域防災力の向上(自主防災組織活動)【えびの市】

飯野麓地区は令和2年の豪雨の際、川内川の水位が氾濫危険水位を超え、住宅地の一部が浸水するなど、豪雨の度に危険に遭遇しています。

そこで、地域住民が主体となって、「自分たちのまちは自分たちで守る」という自主防災の理念のもと、飯野麓地区防災クラブ(自主防災組織)では、地区防災計画の策定やマイハザードマップの作製に取り組み、防災・減災の周知・啓発及び災害対応力の向上を図っています。

また、島津義弘公が居城した飯野城付近において飯野中学校全校生徒に対して、地域と学校が連携した防災教育として歴史的な背景と合わせた未来へつなぐ防災・減災の教育を開始しています。



危険箇所まちあるき



関係機関との警戒区域合同巡視



地域と学校が連携した防災教育